



広島中央トピックス

グリーンツーリズム レンコン収穫体験

JA青壮年連盟広島中央地区本部は2月4日、農業の日帰り体験企画「グリーンツーリズム」を三原市大和町で開きました。同町特産のレンコンの収穫などを通して、農業や農村への理解を深めました。

大学生や小学生親子ら6人と同連盟の部員8人が参加。同町でレンコン65aを栽培している部員の金原貴生さんの水田で作業し、約20kgを収穫。水を張った水田に入り、ホースで水圧をかけながら泥と水をよけ、



▲金原さん(左)に教わりながらレンコンを収穫する参加者



▲助け合ってレンコンを収穫する参加者

レンコンを掘り上げました。取れたレンコンを豚汁やバーベキューで味わいました。

参加した江口ひかるさんは「土の感触や野菜ができる姿など農業の現場に触れる貴重な体験だった」と喜びました。

同本部の橋川信行委員長代理は「農業の楽しさと苦労も知ってもらうことで、農業のファンも増やしたい」と話しました。



県内最北産地で良質レモン 黒瀬町の仁井内孝治さん

黒瀬町の仁井内孝治さんが栽培するレモンの出荷が順調に進みました。昨年は氷点下6度の日もありましたが、霜害対策を徹底したことで順調に生育。県内産地では、最北端の同町で良質なレモンの生産を目指します。

仁井内さんは2021年に就農し、水田転作で23aに146本を定植しました。県内でレモンの産地は、島しょ部や沿岸部などの温暖な地域がほとんどで、氷点下3℃を下回ると枯れてしまうといいます。仁井内さんは、霜対策に簡易ハウスを設置し、苗木の根本にわらを敷くなど対策。寒さの影響で枯れた木もありました。



▲黒瀬町産のレモンを収穫する仁井内さん

が、昨年11月に初出荷を迎え、1月まで出荷。JA産直市「となりの農家」黒瀬店、高屋店で販売しました。同町産のレモンは、皮が厚く、香りが高いのが特徴。仁井内さんは「焼酎などのお酒や料理などにレモンを入れると味わい深い」と話します。

安定生産のため、2023年には、レモン栽培が盛んな同市安芸津町でも栽培を始めました。休耕地を借り、65本を定植し、今年さらに86本を植える計画です。

仁井内さんは「農業を楽しみながら、長く続けていきたい。経営を軌道に乗せ、次世代の育成にも貢献していきたい」と展望します。





水 稲

育苗後半

◆床土準備・消毒

浸種が終了したら育苗箱に床土を詰めていきます。床土は深さ2cmで平らに詰め、1箱当たり1〜1.5ℓを目安に、十分にかん水してください。また、育苗箱の準備を早めにし、積み重ねて置いているとカビが発生することがあるので注意しましょう。

床土の消毒は、カビ・苗立枯病予防のため、必ず行ないましょう。

・ナエファインフロアブル

播種時に1000倍に希釈した液を1箱当たり0.5ℓかん注します。本剤一つで幅広い苗立枯病に効果があり、根の生育促進効果もあります。



▲ナエファインフロアブル

◆播種・覆土

播種は、1箱当たり160〜180g（催芽粃）を基準に、ムラなく均一に播くことが重要です。ムラがあると、生育の不揃いや欠株などの原因になります。

覆土は量が多すぎると粒状の崩壊や通気性の悪化による苗の生育不良につながります。反対に量が少なすぎると根上がりや徒長の原因となるので覆土は種粃が隠れる程度にしましょう。

◆出芽期

播種後、芽が出るまでの期間を出芽期といいます。出芽期は育苗期間で最も苗ヤケが発生しやすい時期なので温度管理には注意が必要です。温度管理の目安は、昼・夜ともに28〜30℃です。ハウスを閉め切ることが基本ですが、ハウス内の温度が30℃以上になる場合（ハウス内に入って汗ばむ状態）は換気をしましょう。

◆緑化期

緑化は、暗所で出芽した苗に徐々に光を当て緑色にしていく工程です。出芽期は光の少ない状態で生育しているため、強い光を当てると障害により緑化しにくくなります。徐々に光を当てることで屋内の環境に慣らしていく必要があります。また、急激な温度変化にも弱いいため、この時期は温度管理を徹底しましょう。

◎温度管理の目安は

日中	夜間
20〜25℃	15〜18℃

◆硬化期

硬化は苗を外気に慣らす時期です。田植えに向けて硬く強い苗に仕上げるために行ないます。基本的に日中は被覆資材を取り除きますが、夜間の温度が10℃を下回り、降霜の恐れがある時や曇天で気温が低い日が続く時などは必要に応じて被覆資材をかけて保温しましょう。

◎管理の目安となる気温は

日中	夜間
15〜20℃	10〜15℃

◆かん水

かん水は原則1日1回、午前中に行ないます。過剰にすると過湿や水分過多になり根の生育が悪くなるので床土の状況などを見ながら行ないましょう。

硬化後期になると、苗の根が張り水を吸う力が強くなっているため必要に応じて2回目のかん水を行ないます。2回目のかん水は午後3時まで行ないます。遅くなるとかん水により地温が低下するので注意しましょう。

◆おわりに

水稻栽培において「苗半作」と言われる言葉があるように、良い苗が作れるかどうかでその年の作柄が半分、決まるといったとえがあります。それだけ苗作りは、品質や収量などに大きな影響を与えるものとされています。

育苗管理の基本は温度です。天気予報や気温計をこまめにチェックして軟弱徒長な苗にならないようにしましょう。

これからは機械作業も増え、忙しい時期へ突入します。また、近年では農作業中の事故も多く見受けられるので、まずは安全を第一に作業に取り組みましょう。

野 菜

JA合併2年目を

迎えるにあたり

広島中央地域本部における

園芸振興の方向性

◆広島中央地域本部における園芸生産環境

これまでも度々ご紹介してきましたが、広島中央地域本部管内の東広島市・三原市大和町は県内でも有数の水田地帯という特徴があります。管内の水田は従前から生産性の高い土地が多く、水稻の収穫量も安定して確保されてきました。

これはそのまま園芸品目の生産性にも直結しますが、かん水手法や排水性に問題があることも分かっています。

これまでご紹介してきた技術を結集し、管内を県内有数の園芸生産地にすべく考察していきます。

◆広島中央管内の園芸品目生産の方向性

前述の通り、管内で推奨する園芸品目も水田機能を活かして生産振興を図ってきました。ここ10年間に

いては、遊休農地や土地利用型作物としての特性を持ち、水稻刈り取り後の冬場の所得確保を目的とした「秋冬ネギ」が農事組合法人や大型農家を中心に普及し、管内は県下でも有数の産地となりました。

しかし、水田転作を主体とする管内においては、特に排水不良を嫌うネギ栽培では管内各地で排水不良などに起因する土壌病害が多発し、単位面積当たりの収穫量も年々減少傾向にあります。

また、主力産地である中国地方の鳥取県や他産地と比較しても10a当たりの収穫量は1.5t程度と大産地の半分以下に留まっています。今一度、生産部会活動を通じて排水性改善に向けた技術検証や収穫量の向上に向けた取り組みを徹底していく必要があります。

このことは、管内における重点振興品目であるアスパラガスも同じことといえます。こちらも排水性が重要である作物であるにも関わらず、排水が不十分な圃場での栽培を余儀なくされ、面積・収量ともに減少傾向となっています。

アスパラガスにおいては排水性の改善を図る技術と併せ、高位安定収量確保に向けた先進技術が普及しつつあります。こちらも生産部会活動

を通した技術検証により、対策の徹底による農業者所得の向上に努めていきます。

◆夏秋ナスの生産振興方策と方向性

夏秋ナスはこれまでもお伝えしてきた通り、比較的過湿にも耐え、また水稻との相性も抜群の園芸品目である上に、単位面積当たりの収益性も極めて高い品目としてお勧めしています。

また、JAひろしま広島中央地域野菜振興協議会なす部会においては、「夏秋ナス共同販売（市場出荷主体）」取扱額1億円産地形成」を目標に定め、広島県や東広島市、出荷販売先などと連携し取り組みを進めています。

地域版広報誌でもご紹介した「日射比例型かん水装置（ソーラーパネルサイリウス）」の助成・補助事業なども、生産者が栽培に取り組みやすい環境づくりを後押しする手法になります。

是非、最寄りのアグリセンター営業指導担当者にご相談ください。



◆異常気象に対応する作型

「施設ホウレンソウ」生産振興

JAでは、夏秋ナスの生産振興と併せ、気象の影響を受けにくい「施設園芸」の生産振興に取り組みます。中でもJAひろしま全域で生産振興に取り組んでいるホウレンソウは年間4〜6回も収穫ができ収益性も高いことから今後、広島中央地域本部においても中北部（高屋町・三原市大和町）を中心に生産振興を図ることとしています。

現在、ビニールハウスなどを中心とした施設鋼材は海外情勢などの影響により高騰が続いており、導入には厳しい状況にあります。夏秋ナスの生産振興と同様、JAひろしま全域における振興方策の策定と行政などとの連携による助成・補助事業の新設、リースハウス事業の拡充などに取り組み、引き続き管内農業者の所得増大、園芸品目生産の拡大に取り組んでいきます。

年金のお受取りは JAひろしまならうれしい『JA』で!! 5大特典

対象期間 令和6年3月31日(日)まで

詳しくはお近くのJA各支店へ

「年金のお受取」をJAひろしまにご指定いただいている方は、下記の特典が受けられます。



年金専用定期貯金



新規・指定替え 記念品プレゼント



お誕生日月には ステキなプレゼント



旅行助成制度



紹介制度

アグリセンター 4月の休日営業お知らせ

次の日程でアグリセンターの
休日営業を開始します。
どうぞご利用ください。

【実施期間】 4月13日(土)

【営業時間】 午前8時30分～午後5時

※5月以降の日程は、来月号でお知らせします。

休日営農相談 ダイヤルのお知らせ

休日でも営農に関する相談をお受けする営農相談ダイヤルを実施します。営農指導員が電話で直接アドバイスします。水稻や野菜に関するご質問やご相談など、お気軽にお問い合わせください。

【実施期間】 4月13日(土)～

【受付時間】 午前8時30分～午後5時

【電話番号】 082-423-5913

東広島市
園芸センターより

講座受講生の募集のお知らせ

東広島市園芸センターでは、野菜生産講座と園芸日曜講座の受講生を募集しています。

野菜生産講座

【内容】

直売所出荷向けに野菜栽培、土壌肥料などの講義

【対象】

- ・東広島市在住で直売所などの出荷農家として会員登録している
- ・品質を高めたい、又は秋冬野菜に取り組む意欲のある人

園芸日曜講座

【内容】

野菜栽培や就農準備などについての基礎的な講義、また園芸センターほ場で実演

【対象】

近い将来、東広島市内で就農を考えている人や高校生以上の学生など、農業未経験の人

共通事項

【開講期間】 令和6年4月～令和7年3月(月1回程度、全12回)

【場 所】 東広島市園芸センター

【定 員】 20人(先着順)

【受付期間】 3月4日(月)～29日(金)

申込・問い合わせ

東広島市園芸センター

TEL 082-433-4411